

平成29年度 調布市立第五中学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・1月までに、教員一人当たり5回から7回の管理職による授業観察を実施した。授業観察後には、各教科研究主題に沿って事後指導を行った。学校評価アンケートでは、94%の教員が常に研究主題である「主体的・対話的で深い学びを実現し思考力・判断力・表現力を高める」ことを意識した授業改善を行うことができた。 ・「生徒が学ぶことに真剣となる授業」を実現するために指導方法の工夫改善、評価の質的向上を図ることができた。生徒教育活動アンケートでは、70%から85%の生徒が目標をもって学習に取り組んでいるという回答をした。 ・100%の教員が「特別の教科道徳」の指導内容に基づいた考え、議論する授業への質的改善をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書を引き続き実施されたい。読書は言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものにとらえ積極的に推進されたい。 ・主体的・対話的で深い学びの実現のために授業の改善を引き続き行い生徒が身に付けた知識を様々な場面で活用できるなど、応用力を高める取組を行われたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通研究主題を「主体的・対話的で深い学びを実現し思考力・判断力・表現力を高める」として授業改善を推進する。 ・全国学力・学習状況調査等を活用し、学習状況等の課題を明らかにし重点取組内容を精査していく。 	A
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動アンケートや校長による3学年生徒全員の面接で約90%の生徒が生徒同士、生徒と教員との良好な関係を築き、学校での自己存在感や自己肯定感を覚えていることを確認した。 ・校内事故件数は昨年度同時期比マイナス175件（保健室統計）であり、校内事故件数を大幅に減らすことができた。教育活動アンケートによると約90%の生徒の安全意識を向上させることができたことが分かるとともに生命の大切さや他の人の命や安全を意識した行動ができていたことが分かった。 ・自己指導能力の定着を重点課題として生徒指導に取り組んできた結果、困難な生徒指導上の問題発生率が0%であった。90%以上の生徒が社会のルール、学校のきまりを守っていることを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部に言葉の汚い生徒がいるのできれいな言葉を使うよう指導されたい。 ・あいさつをしっかりとできる生徒が大変多い。引き続きあいさつ指導をされたい。 ・携帯電話やSNSの利用については、家庭ルールを徹底するよう働きかけるなど学校では機会を捉えて指導をされたい。 ・引き続き、安全教育を重点のひとつとし、安全管理、安全指導を重点的に行われたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己指導能力の定着を課題とし、困難な生徒指導上の問題発生率0%を維持していく。 ・今後の課題を「危険予測、回避能力の向上」から「教科等で学んだ知識等を活用し日常生活や社会生活に貢献できる安全能力の向上」にシフトする。 ・校内組織改編を行い安全主任を設置し、都安全教育推進校として安全教育を重点的に行い全国、全都に効果的な取組を発信する。 	A
健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科を指導重点教科として位置付けるとともに、部活動の指導を充実させることができた。保健体育科では、地域人材3名を活用して「投げる力の向上」の取組を行った。個に焦点を当てれば投げる力の向上が顕著であったが、全体的（平均）な向上はわずかであった。 ・毎日栄養士が発行する「給食メモ」を全学級に配付し、食と健康を生徒に考えさせる取組を毎日実施した。また、医師による健康に関する講演会を実施し、健康への意識高揚を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の体力向上に引き続き取り組まされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーアクティブスクールの取組（3年次）の次年度課題を、「投げる力」の強化と成果の普及とする。 ・地域の人材を積極的に活用していく。 	B
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動アンケートや地域の健全育成団体との情報交換、PTAと連携した活動から生徒の実態や地域の現状を的確に把握することができた。生徒の実態等から教育課程の編成及び実施並びにマネジメントを実施した。教育活動の実施及びマネジメントに関しては地域の人的、物的資源等外部資源を効果的に活用できた。 ・学習指導や進路指導等で学校地域支援本部コーディネーターを効果的に活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学校の教育活動をホームページなどで発信されたい。 ・引き続き地域人材の活用により教育活動を充実されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の実施及びマネジメントには地域の人的、物的資源等外部資源を積極的に活用していく。 ・教育活動の進捗や内容をホームページや学校だより、地域の会合等で積極的に発信していく。 	B
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・『アクティブプラン to 2020』に基づいたオリンピック・パラリンピック教育の推進を行い、スポーツ志向、豊かな国際感覚を重点的に育成することができた。世界で活躍しているリオ五輪のオリンピックによるインターンシップ及び生徒との交流や、ユニバーシアード金メダリストによるトークイベント、世界で活躍した元Jリーガーによる講演会を実施し国際感覚の醸成や粘り強く物事に取り組む意欲の向上を図ることができた。 ・調布特別支援学校との交流を実施した。教育活動アンケートでは約90%の生徒が家族や友だちに思いやりをもって接していることを確認した。 ・教育活動アンケートから70%から80%の生徒が生徒会活動や学校行事に意欲的に取り組んでいることを確認した。校長による3学年生徒全員面接では、コンピテンシーを重視し約90%の生徒が教育活動を通して感動体験をしていることを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、文化的活動を引き続き推進されたい。 ・合唱コンクールの発表は大変質が高く素晴らしいものであった。引き続き合唱の指導を重点的にされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーを重視した教育活動を推進する。 ・生徒が知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ人間性豊かに成長することをねらった指導を継続して行う。 	B